倭歌藏玉集

特1
1982

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』 請求記号 特1-1982

ガラス使用

31. 8. 16

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』 請求記号 特1-1982

ガラス使用

特1
1982

倭歌藏玉集

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号 特1-1982

ガラス使用

藏玉集

春部

加賀御草　大根

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初代草　門雲

大内やまとしき山のもろふ草いくしき人をあれてきたる

正月一日に内裡にうゑる松に門の松のるをとる

初見草　松

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号　特1-1982

ガラス使用

天智天皇ノ吳岳

[illegible]

千代若州

[illegible]

正月七日よろ川の草をつゝて御酒にそなふるし

根白草

せり

[illegible]

二月中旬まで摘し草木附花お茵[illegible]

順徳院の詩まもあるなり

香散見ん艸

梅の花の散ヲ云

特1 — 1982

山里の新嫁に咲るかさみ草色をも香をも誰にはやさん

尋深草

さくら

[illegible]の梅より七日先に咲なり[illegible]

出現といふ雲井梅とも[illegible]人色梅ともいふ

[illegible]

夏見ん草

さくら

[illegible]

化名草

[illegible]

[illegible]

風見草　やまき

梓弓（神宮前載玉の異名）春の雪の積る風見草のうけき風の打なびくらん

春雪　屋ゆ雪木

隣雨の雪の積る春すきまきますべき秋の風の通るかな

風雪草　妙なき

松ゝのこ春は新鶯の叩ぜな草ゝ木ゝ雪の積ゝこの雪

河ゝ草　家名春

吉野ゝ流嵐瀬ケ口しりあり

（天智天皇玉の異名）波ゝふく風ハ春ゆゝ河ゝ草ゆゝ嵐の瀬のしらゝん

化夢化草　花

茂さかはたつゝの山のたむけ草夢やむ色の絵の多ぐれ

矣雪毛草　松のさけも

山里の古紀新鶯のたむけ草花やさうましなこり思へば

手向草　すゝれ

小野しゝ有べし

茂さこのはさいれを雪ゆゝ雪むけ草一枝の間ゝ二葉ゝ雪

一夜草　花夢

外ゝ色の雪といふ物語ゝあり

順徳院の法作首老人にまよひくゑろきやり
日をくらしく葉のうちにそ鳥のかいことひろひぬる
を納り入法葉のまつらとひきむすひくゑ[illegible]
せへしかし姫菅ところやり日ろひ法るかいにハ葉出
来なり此世に埋むべきよしこゝく菅さゝ[illegible]
姫菅のおとくに金がくらりむその浮報ところ
り葉一つある葉に思の花さまゝ思いまれす
これなり
一花葉ゆめさましつゝ夜への葉と思へハいまゝつむらん

二夜艸　　素身連
無後の神の恵こゝり四つ[illegible]し二よ菅ゝ花の咲て
一葉艸　　須美稔
鄙にまよひくれとこ又菅ころやりなり此れ此べの
くさ法にありけるよしおく のるとまよひせとめ
けるに鳥の四ひこゆり金をとりて鳴りすりれの
えにうけめ里
命をやりけく形人一葉葉月にやゝ葉のさゝんよ別く
この書これを人にひけれとハ[illegible]

[illegible]

二 葉菓

すゝ[illegible]

世くだりて後社頭のすゝ[illegible]

この[illegible]この[illegible]

[illegible]

二 葉菓

[illegible]の[illegible]

大門[illegible]

この[illegible]

四 葉菓

ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二 [illegible]

春秋[illegible]

[illegible]

二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

葉菓

[illegible]

松見草

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月三日門程にて御酒に入らせ給ひなり

三子代艸

西王母の桃のことに三子とせしなるてふものといふ

[illegible]

[illegible]

日新菓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古墨の[illegible]

鏡艸

[illegible]

夏部

初見艸

[illegible]

雪見草

[illegible]

頃見草

[illegible]

形見草

[illegible]

草を[illegible]

形見艸

[illegible]

死て松屋我子の作りたるなそしことゝくそとまとす
まゝ為てしこの口傳なるべし

石竹　常夏

むかし東國に鳥田の時主と云る勇士なり
家の後の山にしきゝの石有日の石に雨並行りて
人を為屋まして時主伴の石に射刻矢立ぬけ
すゝて茎さく此草為てしこ為りけれハ花二重り
て咲と云云

かゝる草花と色いまん石の竹為紀無の人の語をのことは

石竹　なてしこ

かゝる國に有る夏ハいさ知らずあつまれおくにおゝる石竹

雨云見ん草　あふち

天智天皇ノ花ノ美名
山をさ新羅りかゝる雨ゝ見ん草雨しハあらでとくそくれ為

白ハ吉ノ花　かきつゝと

二所宮ノ花ノ美名
夏竹のおりき中にまゝ都よりの花折袖とゝむらさ紀に為る

唐石竹　光ちゝ草れ

天智天皇ノ花ノ名名
桂童しはいむりしの山ハこ草さ世ゝる紀にて今の思ひ紀

むこのし草　為千ゝ名

永宮花ノ美名
よ代をへて雲にあれ行むかし艸のを見つゝ袖まつらす

秋待草　夏田

水かけてあきまち草の夜なくりし露とこゝ雨ハ雨ハ明なる

水掛草　夏田

天智天皇花ノ美名
只植し我田の面し蛛まちて名を草をかり志明なる

池ノ艸　もちす

このけうつす花や雲らんいけ名草なみかりて浪しらひつ

鶴塩草　けち草

あひきつ花ゆさくらん清ゆ草ゆ草ゆさきにハ

水塩草　もちの名

花咲思浪とゆうらん名た草底ゆさらんへこゝ雨ゆこの二字

庭塩水　花ハ四月雨の浪庭をたまる名

後紀ニ昇
四月雨やも浪を浪らん庭を浪しけるゝ雨紀を名の名書

蒲草　まつ川

紀吉屋庭の河ゆりの花おきあ艸長井とくゝ多人をかこまく

紀らしの堂里に云紀の松と云有かの松とし姫りとく

蒲と見して紀ゆり常に雨をすまして琴を調ゆり

秋ハ菊を遣おゆくらゆりかの蒲の花ハ

さゝ浪やしの松風庵もきこゆなる気色に似たる人
此色よりて菊と霜なとも中なり又松の本名
ありつの縁と今てはおもはす從かの霜を取としる
此月に見えよりて色るゝ高松。信さり
ましてなき霜なきも秋の風なかれん
後撰集の哥也

氷室山　あし

天智天皇ノ御名
難波江はことも名なれ霜の江の浪もて汝る蘆の枯葉

此無名　あまゐ

百首
あつまやの事現在今俗に色葉集に此所にありとあり
大内山ハ新古今集にかくなん
光り草　みかゆり
こゝもとをみかゆりともいふなるこの草ハ火絵草
なりともいふなるとある書に見えたるを聞なれとも俗説なり
火縄草　是ハ和哥の中にかかりたる事なし

百
よもぎふし河辺の浪に光り草月のある夜ハ迷ひ路也
萩の世をこゝろさしにける花に鶴く光り草の哥
是ハ去の光り草の哥也
花生之鳥　おくる

秋ぬらハ風しかちらん人さらしき菓の花の枝をたにむ十月雨

涼菓帖

松風

鳴をみハ山の雲のしきまゝ白なりすゝれ菓の風の冬れ

手訓菓

あふさ

手菓見し菓人のかゝらしき菓ゝ菓ゝ滴のつゝぬ時ハ行れかし

風涼草

行ふ夷

通月口

河さ浦こき申之の色ゆかきち菓手訓をて神と月をおまし

風有草

とゝぬまゝ河かゝちん風宮菓ゆかへしらんゝ菓ゆの月を

是ハ風訓菓ゝ風宮菓ゆかひいひるを又お月し

秋部

初見草

萩

天智天皇の御の二天名

春ゆ風りく菓ゆきゆるゝ清こ菓さのふれ夏のまきとゝ思ハ

庭見草

ゝ

ハ

かゝ稀しハ稀かゝる庭見菓折しこゝる人のゝゆきよ

古枝帖

二古城ゆきゆり

はき

如行ゝ并

二古城ゆきゆるゝ菓ゆきゆるゝ菓ゆきゆるゝ菓ハ咲ゝり

秋遅草

もちよ

人丸

秋ちかく浦もの花咲るよりやがて

藩漆菓

栗こ餅のごとく

もみぢ葉に時雨ふりかゝるよりやがて

秀寛菓

こうばしき金流の芳会

とりもなをさず秋の景色なり

紅葉鳥

紅葉ちるこのした風のさむければ

ねやの戸さゝぬ夜半ぞすくなき

春

春霞たてるやいづこみよしのゝ

吉野の山に雪はふりつゝ

秋

もみぢ葉の流てとまるみなと河

渡らば錦なかやたえまん

秀岩菓

如仙

萩の露こぼすな雁の玉章

雁来紅のごとく

なる袖にかけてうつさん秋の色の神な

秋

たき

秋風

修験の字

松ふきしをる秋ともしらぬ風の音

山下菓

霜もこの

ちかづくのみやまおろしに松かさ

ふき出るかたもしらぬ

杉紀

ちぐさ

風将菓

雪をまつ笹のうへこそ

男性

あき

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号 特1-1982

ガラス使用

後京極院御時菊を合せ侍りし時の歌
つまこひす又おもひつまをおもひ草風のたよりの音たにもなし

霞覚草　初紅

家隆二首
わきもこか心ひとつをやま菊の草のはつ紅におもひそめけむ

白蓮草

緩波白蓮草ともいふ萩と白蓮草と詠

二條院讃岐二首
おもほえぬ秋をしらぬ白蓮草袖に露とそおきまさりける

すみなれしわかれし後徳院の二首持の歌とよめり

濃霧草

天智天皇御製
花ならぬ名をも千種のたくひ山路の草の花はあれとみるほとそなき

八月中旬より十種や中旬を定らるゝ草春秋の良相生の花と有

色替草　松

松く香をとゝろはの名を言に紅葉かりせの宮よ秋いきぬめり

松を言に云はしつて秋の中をみるも後鳥羽院の御時

菜木の是名伝くらなくくゆるく染色に紅葉も色也

菊風にや秋のとまる人伝へてもみえ

松待草　清し

秋宮女の是名
秋の色をしらぬよその木の葉のわかれをしらはまたこそしれ

唐忌草　はせ緑

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号　特1-1982
ガラス使用

吹風の萬物ゆるくん小ハきゝ草とも有ハ新鶯のとゝ出のうを

夕新艸　あさかを

名小ハきゝ行しの草ハ咲有しハ申ゆゑ也草にいかくいはせ

読草　河さか母

河さかハ古はけしき有る河さ原ハ如こゝ草まゝ見えて名ハ

思草　おゝ乱

さの関縁世道の物語ゝ行り如前首とおとひ草し

いふとハ高流家載の草清しこゝ見えたり天智ゝ皇

草ハ其名ゝハ落しゝ又志を全ゝ有明なし法組

おゝ乱ゝと思ひ草しゝ言ゝの彼家載合ゝ言ゝ

乗白論有り又法ゝとも能因法師ハ詠せり

有れかとるさか世ゝ意の思ひ草家有紀有ゝハ咲有ん

忘草

紅葉ゝハ草咲色とゝ行ゝ草ひとハ秋有しかゝまちの云

往古ハきゝ如ゝるとも云又萱草とも言ゝ草

しいふ如俊頼ゝさゝとも有り風吹有ゝハいの

ちゝしゝとなり

形見草

又法の草とも中むかしに君州に有しとの妻の塚に生ける菊
あり又ほすれ草とも中八幡時よりいひ始めし
なれ人に折ひたむかしに草にまさくにしれ草ゆへとも
かくみ草　紅葉百葉なり　紅葉
ゆきとも思ふ事にしのかくこの草ちらまくおしきやまに風をみて
書意草　紅葉
小倉山志ゆきの草の書はいひ草乃いろ草の出しらせ
錦草
青川矣山松をあくなる錦草時雨くまるる山のこさり

大和の國三輪の里に起菴ありかの庵に一ことゝ此菊とうえて
こゝくあせふ此菊秋冬ゆきて春夏まて此紫草の日
あり家のとのふ志しくしてくれしくろ○まゝに七月一日より
毎夜雨の中法のとう法ハとのふ事をまるまゝ夜
あり毎月此紀元しき此家にしかれ仍て百夜草新す
天智天皇紀の吳君
当にしおふかきれ庵のもとに草を咲てこせ志ゆ夜しなれ
星見艸　こさく
清浦ノ家
庵にまゝにしてふい絲ゆほしこ草まかりぬ事を雛にハこゝ
水熱草　うんせきさ

七月十五日の手向水なり

[illegible]

手向水　七月十五日の水之

[illegible]

夕玉草　竹葉

[illegible]

竹玉艸　舟

秋風ハ寒ある松ゝからかなりかハ玉葉となりといふ風也

次浪草　尾花

[illegible]

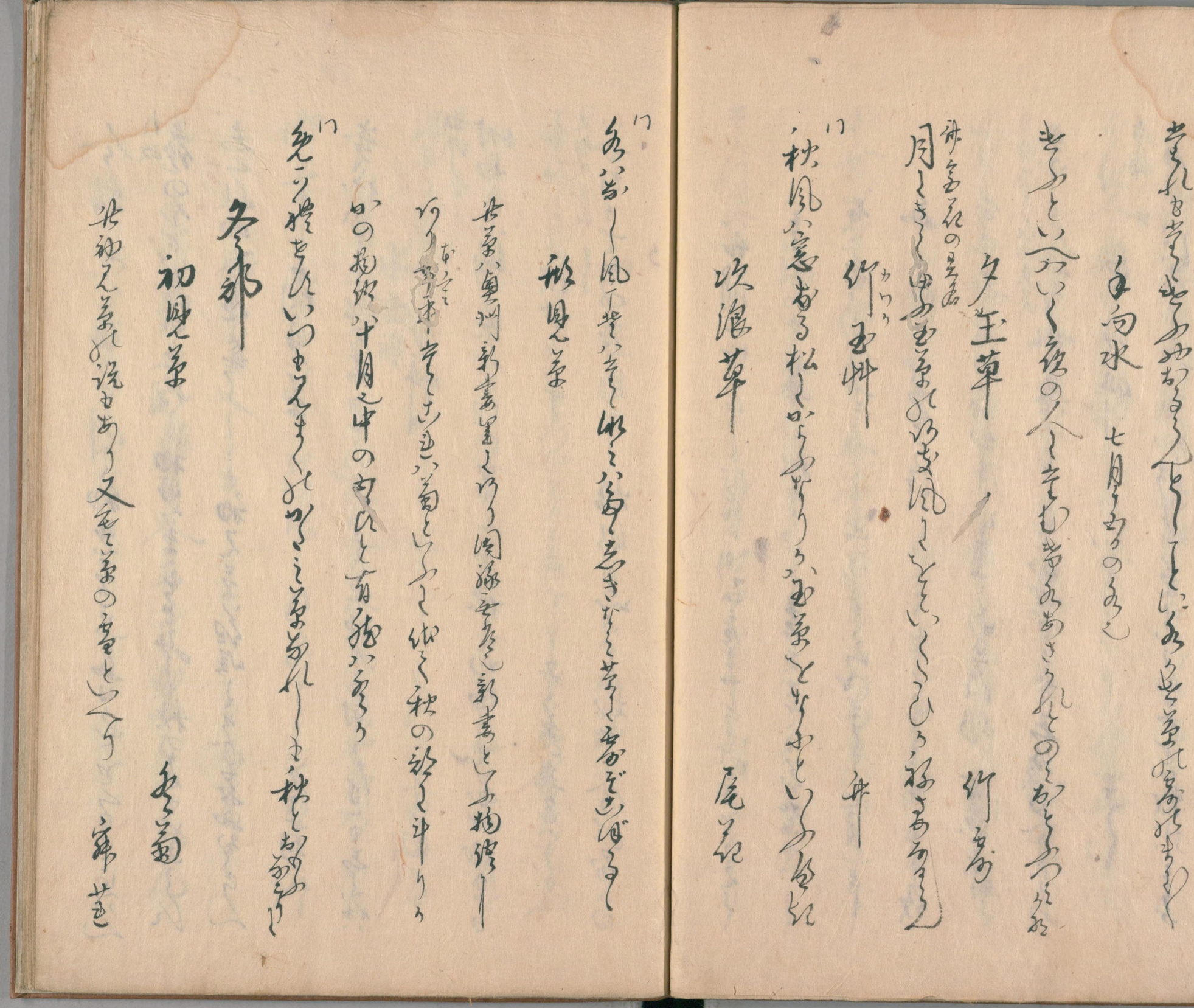
形見葉

[illegible]

冬部

初見葉　秋菊

[illegible]



今朝ハ世ハ紀ニ初見草さすゝ日ゟ世をくりて思ふ

粉改 顔のみとハ萩の立枝に初見草をとみし秋の色も結ぶらん

志くれ嫗ふ屋にせふしも初見草紀咲にけり霜ゆかしらん

霜見草　冬菊

幾代屋し松の木ゟ世の志もゝ草植ける時をたゞ生も志ゝ様

雪見草　冬菊

西行哥 時雨ゟ小嫗ゟ照ゆさ紀の雪ゝ草秋に河濱りて雪ゆ雨ゆる

秋雪草　冬草の熱名之下云

天智天王花ノ三名 草ちりて其の名をかゝりて燥ゆ草かゝこゝにおきる今ハ雪ゝ雨

初名草　冬梅小郷にあり

門 菊代にさきる中小さきつ草草をまとゝ如雨をもんまゝ

鏡草　氷のこれ岸をいふ事一字論にあり

門 浪ゆふなかとさかましかゝ草氷のこれの名

氷面鏡

月の新に水の氷まるにいへり氷ハ熱名之加藏川にあり

御幸せしかさしハ如し紀吹風にひゝかゝこゝ世ゆゝ紀にあり

親子草　由すりも

年ことに出の比おふる水屋に草人を志ゝさき如やさくらん

六葉

六花のまゝ六しく和哥新編抄にあり後房唯子本云
二ツ梅さくら冬に刻之事也雪秋と一ツ菊夏と卯の花
の雪とあり也之を交の雪也とも絵ゆゑ辟(ヒカ)交之六也
花とも入

冬風に吹かれてさかん也津の国手折納ゝ雪のうれる

雜部

子代見ん草　　まつ

天智天皇花の王名
神山の姫もとにおゆるちよと草植おきてそこうきこゝろ
豊ちん草　　松

河上の夏ゆゑつゝ風とのときハ草このもとに夏の紀時をて遊

花と子代艸　　松

神ゆゑ志るうへ見る時代と子代草久ちやとの水ハ名出て

延喜草　　まつ

かきの風ゆ紀草の沢の初さき草花ゆゑより雪ふかくれて

延見ん草　　まつ

君をあらはいく代をかけん冬草かり其ゆゑ草ハ咲ゝる

夕見ん草　　心

おりに出れてとふ津ゆゑ草月出よひの花ゆゑ

(17)
秋ごとのつる月をおもふこころのあさくや秋のあるらん　心

(17)
萩と月あるじなからこと葉こそ宿をしるべとなりもしてけれ

(17)
折ふせる萩のうへ葉をかぜふけばうらこそなくさみなかりけれ　心

(12)
露ながらをりてかざせばたもとまでにほひそめけり萩のはな

時ふせる萩　心

露ながらをりてかざせばたもとまでにほひそめけり萩のはな

同覚萩

こぼすなよ露のあるうちをりてみん秋風ふかば萩のはな　心

麻覚草

なつさくるものとはなしに秋の野の草ゆゑ物をおもふころかな　心

忘草

忘草あるかなきかの心ぞとたのめぬ秋の日をもへにける　心

河連草

月ゆゑにおもふ心のなぐさまばうきにぞ草の名をもかへまし

おもひ草なにしおへばかひもなし忘れんとこそ人はいふなれ

いかにせんなぐさめかねつ草の名のうきにぞ物のおもほゆる　心

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号 特1-1982
ガラス使用

草といふ文字を平りえそれを子代とかく釋しこゝ中
ひかてとこゝあるなり

遐加吳名　冨草　神代稲の名也

阿すより八卯雨の小田に袖かれくとみ草の栄苗うへまたへ也

獎草

中宮の昔物語にありむりし陰奥の国に日本にあり
無しまひて中ハつかしへひ給る史記おしこそ行かん
日本時兄産家の草と一のと二ツまけて出ひしかゝ
時ハたかひに世きくとゝんくあくさむへしといひけり

中つかしへをもて中向して世菊を植たりし菊二ツ
けきしまに茶咲たるとなん

伸ふ世に人いしゆのるゝ　神楽の謡にあり

海とゐする伸ふ世みの声くに神をんとうちとけるへ

拾さて阿田　腰立といふ也　日本紀に有

おさて阿田神のとつかの太刀をかれ蘇つま海好く人ニ依之

鷓鴣　かく　志やかくとハすれゆきかきのけく
とうるといふなり

鷓鴣といふ鳥のうハ者の紅に蘇りし紅葉の飾りなりけり
鳥のうハ世の紅とハ志やことゝとうハさむかり神ある鳥之

秋の来ゝなれハ紅葉のちるとをかうさ[illegible]
[illegible]のさむきをふせくゝ源山ゝ行り鳴声ゝ
淋しとゝへりけ鳥山雀ゝ[illegible]
こき流らく海士
よさの海志をひのうこと砂をかけハきすといふ貝[illegible]
うふひす神
金玉杯
玉紅さく
ノ和哥新論杯ゝ有也の義[illegible]
さまひ出ハ
[illegible]

さまひ出ハ[illegible]山里のまをかちにうちたゝよ[illegible]
かく柏
弁[illegible]
[illegible]かく[illegible]出し[illegible]かく柏[illegible]
やまし[illegible]
童蒙杯ゝあり[illegible]
[illegible]
出をり
留[illegible]
かゝ山[illegible]
吉野草 堀川院[illegible]
[illegible]
風待草ハ

くろ葉に　　くり葉に
常盤草に　　椿 岡志葉に
ぬけ谷の葉に　　ささ葉に
風雲草に　　ゑそ葉に
きそ草に　　志の布葉
ゑぞ葉に　　よめ葉に
うは雪に　　橘雪に
命くま葉に　　法そ川雪に
日ぐす　日本記　　きへ小雪

ふたり　　ふき葉
いぐみ　俗名胡頽子　　まひ雪
ちぐさ　　小笹　　小笹雪
細竹　　水出
　男女の中生れし
笠茅姫　日本記
あさまつ好　　奥の名
さゝれ石　　現元集
まつとしらぬ
まつ紀

清元
天の戸をおし開く神のきそなれもゆあけまだたゝのひろまへ

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号 特1-1982
ガラス使用

ゆかけとハらめたけ之七夕ハ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ぬ
かくろ之 他人の[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]
こしのを とし[illegible]初メ又ハ[illegible]の[illegible]一[illegible]
ここ[illegible] 明年の[illegible]
うきこ うきたる[illegible]
志ゐ葉の袖 章[illegible]
いるつまのこまし 七夕の天の河原を渡りぬ[illegible]
[illegible] 天のさよ橋 [illegible]
[illegible] 秋[illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] 白玉[illegible] [illegible]

[illegible]
[illegible] 今[illegible]
[illegible] 山人[illegible]
梅[illegible] 車 [illegible]
浪車 [illegible] 石の[illegible] 筆 [illegible]
[illegible] 心の[illegible] [illegible]
一葉[illegible] [illegible]
心の[illegible]

十二月異名

後鳥羽院の御時十二月異名[illegible]
[illegible]

正 柳 初宣月 [illegible]初月 初春月

從万葉集勘出　雪ハ粉ふるとしながらこゝ玉ハ花ハ[illegible]の月　御製

同　[illegible]

同　[illegible]　家隆

二　桜雉　梅ノ月　小草生月　安東忌月

從日本記勘出　[illegible]　有家

同　[illegible]　顯昭

同　[illegible]　御製

三　藤雲雀　[illegible]月　櫻月　春惜月

[illegible]　御製

[illegible]　定家

万葉　[illegible]　家隆

四　卯花郭公　卯花月　得鳥羽月　[illegible]月

同　[illegible]　長明

日本記　[illegible]　有家

万葉　[illegible]　御製

五　橘水鶏　賤男深月　月不見月　橘月　吹花月

日本記　[illegible]　定家

万葉　[illegible]　[illegible]

万葉　[illegible]　家隆

同　時鳥初音の[illegible]　長明

六 常夏鶉　風待月　鳴雷月　常夏月

同　松[illegible]　啓昭

同　[illegible]　定家

同　[illegible]　御製

七 女郎花鶉　文披月　七夕月　女郎花月

同　七夕[illegible]　有家

同　鶉の[illegible]　啓昭

同　七夕の[illegible]　啓昭

八 萩鷹　秋風月　月見月　紅葉月

同　[illegible]　家家

同　[illegible]　長明

同　時雨[illegible]　有家

九 薄鶉　紅葉月　小田苅月　寐覚月

同　竜田[illegible]　御製

同　淋[illegible]　啓昭

同　[illegible]　家隆

十 菊鶉　時雨月　旅月　初霜月

同　[illegible]　定家

同　秋の田のかりの果ぬる後月の杜より秋ハ始る事也　敬昭

同　草木本紀月の事ハ詠ハ記也の事方　長明

十一　批杷　霜降月　神楽月　雪見月

同　風雪降月の事よりせ雪げとうんへ日をうけ　御製

同　志ゝ時ゝ也方の宮居の神楽月　三郷草木の志ゝ也　定家

同　暑ニ鵲雲北方に氣ゝ月　今朝社名の志也　毛禮　有家

十二　梅鶯　春待月　梅初月　三冬月

[illegible]年八月[illegible]月の[illegible]　長明

[illegible]梅初月[illegible]　敬昭

[illegible]　定家

○此年月の[illegible]八月日本紀并万葉

集出之所秘々々　自餘八皆以證所[illegible]

以一巻八自室町殿　鹿苑院殿也　草木異名之事依被尋申

被注進　二条攝政良基公　清書之時密寫留者也若有風聞者可爲生

涯吏不可書憚尤可秘々々　○恠

十二月異名　正月　菅新月　年初月

[illegible]

二月　霜消月　梅津月

年[illegible]

[illegible]

三月　花津月　夏見月

[illegible]月花より[illegible]の[illegible]我和ぬれぬべし

桜花和[illegible]の[illegible]月[illegible]風の[illegible]の[illegible]

四月　卯花月　夏和月

夏[illegible]帰[illegible]月[illegible]

時鳥[illegible]月[illegible]

五月　挟雲月　矢草月

[illegible]月[illegible]月[illegible]

一首のうちより心[illegible]

六月　涼菅月　松風月

風吹[illegible]

雲[illegible]風月の[illegible]

七月　七夜月　初秋月

[illegible]七夜月[illegible]

風[illegible]風の[illegible]月[illegible]

八月　木染草月　草津月

[illegible]木染月[illegible]

[illegible]

九月　草花月　紅葉月

[illegible]

[illegible]

十月　神去月　神去月

出せとなる松のなりて　[illegible]

神去月始りとせしすことさらなれ　時雨如雲の神なり

十一月　雪待月　神帰月

山風を雪待月といひ風ましおとハ志られ始ぬ日雪をと

四方に花ふ帰る神ちれかみさ月　天の宿れ乃ふ如明らん

十二月　[illegible]月　親子月

[illegible]

これ人のこゝろをまつるなれ月　これ如今れたかなしと

右十二月吳名之哥後頼撰集のよしこそ哥不害

多し以上詠哥之外十二月の吳名

正月　むつ月　[illegible]月　むつ月

二月　きさらき月　[illegible]月　木のめ月

三月　やよひ月　[illegible]月　[illegible]月

四月　卯月　うのけ月　あ[illegible]月

五月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月

六月　[illegible]月　[illegible]月　山名月

七月　[illegible]月　文[illegible]月　あきそ月　ひとそ月

八月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月

九月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月

十月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月
十二月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月
十二月　[illegible]月　[illegible]月　[illegible]月

以上

右者円應法師以本寫之畢

右一巻者　素郷之御自毫以本寫之畢

垣辰券

右蔵玉集[illegible]垣辰[illegible]今幸得借之仍
写之者也

山本猿子光邦

二十時

安永三年甲午四月三日

右一帖者同輩山本某所持也幸依親
請借之今此書寫之者也

寛政八丙辰年三月中旬

櫻井氏

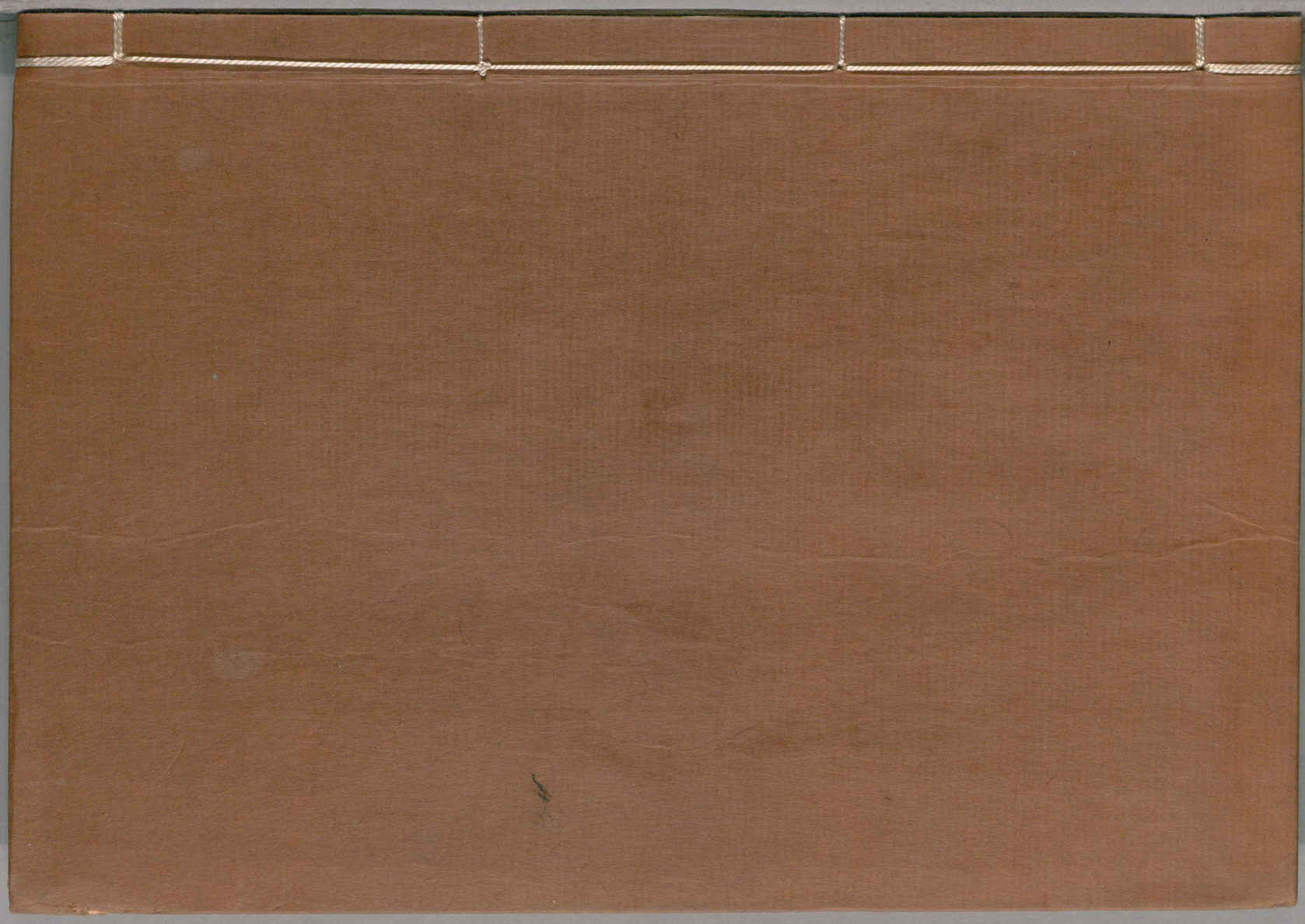
特1
1982

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』　請求記号 特1-1982

ガラス使用

特1
1982

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』 請求記号 特1-1982

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『倭歌蔵玉集』請求記号 特1-1982
ガラス使用